

金方堂新工場、東多久町に完成!!

金属容器メーカー大手の金方堂松本工業株式会社（本社・東京都）佐賀多久工場の落成式が7月23日に行われました。地元関係者や取引業者ら約140人が出席し、新工場の門出を祝いました。

同社工場は、九州初進出で、埼玉県、滋賀県に続き、3か所目となります。同社は、1905（明治38）年創業で、ブリキ製の製造販売でトップクラスのシェアを誇ります。

9月初旬から本稼働し、海苔缶やテーマパーク向けの菓子缶などを生産します。工場内には、九州営業所も併設され、九州の拠点としてシェア拡大を狙います。

～離れた郷土を想い～関東多久の会が開催

7月26日、東京都千代田区の如水会館で、関東多久の会が開催され、関東在住の多久出身者や横尾市長、山本議長ら70人が出席し、故郷の思い出を語り、親睦を深めました。この会は、毎年7月に開催され、今回で14回目。

今年は、市制施行60周年を記念して、同会の郷土交流活動に対し、特別市政功労者の表彰状と記念品が横尾市長から贈呈されました。



▲長年の功績をたたえ表彰状を贈呈された岡田会長と横尾市長

出席した相模原市在住の森橋満寿さんは「多久の情報に直接触れたくて、毎年参加しています。多久の未来に期待しています」と話し、また岡田史一会長は「会に参加すると、多久の自然を思い出します。郷土愛という本能的絆をこれからも大切にしていきたいです」と語り、終始和やかな懇談が続きま



▲東多久町出身の宇都宮久俊さん（調理技術技能センター理事長）の旭日小授章受章の報告



▲都会に住む元多久っこ「関東多久の会役員」のみなさん。そのチームワークは抜群です。



▲アトラクションで「岸川節」を披露した杉山嘉隆さんと岡島直子さん



▲挨拶する竹内社長



▲くす玉を割り落成を祝う出席者

竹内雅夫社長は「すぐれた製品を作り、地域社会とともに発展していきたい」と挨拶しました。また、横尾市長も「地域活性化のためにも、しっかりと応援したい」と祝辞を述べました。今後も多久市在住者を優先的に、雇用していく予定です。

市長コラム

温故創新

Message for citizen

多久で佐賀県市長会議を開催

市長 横尾俊彦

佐賀県市長会の市長会議を多久市で開催しました。8月19日は朝から雨が気になる天候でしたが、多久市役所に集合し、県知事要望、九州市長会政策提案など審議しました。大雨警報も出て、雨次第では即時解散して各市の防災にあたるという態勢での進行でしたが、市長会議と行政視察（あいぱれつと、小中一貫校）を行いました。

県知事要望では新たに項目を追加。内容は原子力災害の場合に原発から30キロ圏外の適切な防護・避難などの災害対策充実を国に求めるとともに、県の防災計画を見直し対策を充実してほしいという要望です。万一の事故で放射性物質の飛散が想定される場合、影響は30キロ圏内に限定とは限らず、距離とともに減少しながらも予想される影響を踏まえた現実的対応が不可欠になることから「対策強化を」という趣旨です。

これを受けたかのように翌日には国の原子力規制委員会が、30キロ圏外の対応充実を検討する方針を発表。まさに時宜を得た提案内容となり、22日に県知事への要望を行いました。

この市長会議の翌日未明、停滞する前線により西多久で200ミリ超の豪雨となり5時台から出動し対応しました。7時半から雨が止み、避難勧告には至らず多久市内は無事でしたが、広島市では死者・不明者80人超の土砂災害が発生しました。お悔やみとお見舞いを申し上げます。局的集中豪雨と脆弱な地盤が悲劇をもたらしました。安心安全は政治行政の基本。今後も力を注ぎます。